

すさまじい日本兵の加害を話した後、
「二度と鉄砲をもって侵略しないでください」
と南京大虐殺被害者は言った!!

日時:2025年12月13日(土)13:30 (開場13:00)

朗読:反戦川柳作家 ^{つるあきら} 鶴彬は語る

被害証言:曹玉莉(ツァオ・イーリー)さん(被害者の娘)

南京訪中団からの報告

参加費:1000円 学生・障がい者 無料

会場:PLP会館 5F 大会議室

主催:南京大虐殺60ヵ年大阪実行委員会



長江(揚子江)

目を背けないでください!耳をすましましょう!!あなたの声を聞かせてください!

長江の流れに淀む南京大虐殺で非業な死を遂げた人々の魂。GAZA の瓦礫の下で無謀にも息絶えた女たちや未来を奪われた子どもたちの魂。関東大震災下でデマに踊らされた民衆の手で、理不尽にも命を落とした人々の魂。数えきれない無数の魂たちは、今どこを彷徨っているのでしょうか?人はなぜ、こんなにまで残酷になれるのでしょうか?!軍事基地の近くで性暴力にさらされ続けてきた人々の思いは如何に?

今、日本政府は、アメリカの思惑に沿って、中国・共和国の脅威からの防衛と称して、沖縄のみならず、日本全土に実弾軍事訓練を展開しています。防衛大臣が市民の抗議活動に懸念を唱えたり、野戦病院の訓練すら行われています。「日米地位協定は『戦争に負けたから仕方ないことなんではないですか?!』」アメリカの思惑に従い、侵略していった国に再び銃口を、いや!ミサイルを打ち込もうとしているのでしょうか?!「反中反韓」を煽る「日本人ファースト」の声が大きくなる今、私たちは、同じ過ちの道を、再び突き進んではなりません。二度と繰り返さない!!そう誓いたい!! **今しかない 止めるのはわたしたち!**

南京大虐殺犠牲者国家追悼日に来日される南京被害者の声を聴いてください!!



あれだけの被害を与えてしまった中国の人たちの心と体の深い傷をどれだけ私たちは受け止められたのでしょうか?
「南京」を知ることは平和への道。

●被害証言：曹玉莉さん(生存者の娘)

曹玉莉さんは、父母から、被害の状況を聞き取ってきました

た。父親の曹洪泰さんは1929年3月生まれ、母親の張翠英さんは1930年12月生まれであり、1937年の冬は父はイ堯化門近くに住み、7才、太平門近くに住んでいた母は6才でした。父方の6人、母方の2人の親族たちが、南京大虐殺の犠牲者です。残された家族が、命からがら自宅に戻った時は、家はさんざん荒らされ、12月にお正月準備で買い込んでいたものも無くなっており、家も家具も焼かれただけでなく跡形も無くなっていました。また、身内を探しに行ったところ、非業な死を遂げた父方の二人の犠牲者のあまりにも無残な姿に、生き残った人たちの身も心も病んでしまった家族もありました。



●朗読：反戦川柳作家 鶴彬

「戦後八十年再び戦争の空気が漂い始めた今の日本
鶴の生きた時代とその短い生涯、精神を突き付ける!」(佐高信)

●大阪南京友好訪中ツアー報告—映像と語り—

団員たちはどのような思いで南京にむきあったのでしょうか?そのつぶやきを...

加害証言：—祖母の加害の足跡を訊ねて— Mさん

中国と日本とを行き来する中で、...心に葛藤を覚えなければいけないこともありました。...日中の排外関係を友好に繋げるために力を尽くしたい。と、彼は南京証言通訳を買って出た。

叔父の遺品整理で38連隊の写真を見て、冊子を作り、奈良県立図書情報館に写真をすべて寄贈。それで一度南京を見たかった...など。

南京栄1644部隊跡の病院の窓に目を凝らして、「あの四階で祖母は働いていた!」と衝撃的な言葉が.....

(利済巷で)このどこにも表わされることのなかった無数の方々がいらしたことに思いをはせながらこれから見学します。歴史否定の風向きが強くなり続ける日本で或いは家父長制が続く日本社会を変えていく力に変えていくことを誓って...



PLP 会館へ
大阪市営地下鉄
堺筋線 扇町駅 4
番出口より徒歩 3
分
JR 大阪環状線 天
満駅改札口より南
側へ徒歩 5 分